

文書の目的と概説

資格取得レベルの実践者に期待される中核技能には含まれない技能をもって卒業する作業療法士が求められるが増えている。この現象の例には、物理療法手段、認知行動の技術、酸素管理、傷のケアが含まれる。この声明書は、基本コンピテンス、有能性、上級実践技能における作業療法実践の視野範囲を明確にすることを意図している。

とりうるポジションについての声明

WFOT は、作業療法の専門職の基本概念として、作業、作業遂行、作業との結び付きにコミットすることを強くサポートする。作業療法実践は、人、作業、環境、あるいはこれらの組み合わせを、個人が作業参加拡大のために変化させることができるということに焦点を当てている。WFOT は、こうした技能は資格取得レベルの実践のために必須で中心となると考えられている技能であることを認識しているが、その一方で作業療法の仕事を進めていく際に多くの追加技能があることを認めている。

作業療法にとってのポジションや問題の重要性についての声明

1960年代と1970年代に、作業療法は医学モデルによる枠組みを課せられ、多くの役割を統合してきた。それには身体医学や精神科サービスにおけるリハビリテーションチームに必要とされた多くの課題が含まれていた。こうした役割の要素は、どのサービスが行われたかといった中で観察されるギャップから生じていた。他の専門職の同僚は、作業療法士が提供するのとは何なのかを理解するのに苦しんでいた。自分のチームの作業療法士が何をするのが適切かについての仮説を立てたのも驚くことではない。

20世紀の終わりに、作業の理論と作業療法実践のモデルが、世界中の多くの国で作られ、この革新的な知識が急速に広まって、こうした考えが広く適用された。これは、機能障害や能力障害のレベルから生まれたそれまでの実践モデル、患者の人生や社会への参加についての当事者の認識ではないモデルに対する直接的な挑戦となった。多くの実践家は、新たに生まれたアプローチを使った実践の枠組みよりも、自らが最もよく知っており馴染みのある枠組みに留まることを選んだ。

この状況は多くの実践場面で残っている。相互交流的パートナーシップを構築して評価や介入計画を通して、クライアントをできるようにしていくといった明確さに欠けることよりも、観察しやすい技能の方に価値がおかれている。実践家は物理療法手段や認知行動療法の技能を適用するような技能を発達させることを選ぶという見方が確立するのである。WFOT はこうした技能は評価や治療のもう一つの層としての技能であると理解している。こうした技能は、作業療法実践の中に位置づけられるかもしれないが、拡大された実践の範囲であり、作業療法実践の中核ではない。実践の中核は、人、作業、環境の間の相互交流や相互関係を通して認識されるものであり、作業、作業遂行、作業との結び付きの考えの中にある。

適切とされる社会にとってのポジションの重要性についての声明

潜在的なクライアントに対する作業療法サービスの価値や関連事項を説明することは、全ての作業療法士の自然で簡潔なプロセスでなければならない。人—環境—作業の関連のような考えを説明することは、クライアントとセラピストのパートナーシップの始まりであり、この関係はクライアントが優先事項だとすることに基いて実践を組み立てることの重要性を基盤とする。こうした経験を通して、より多くの社会の人々が作業療法の価値観に馴染むようになり、作業療法がなぜサービスの選択肢となりうるのかを共有したり強調するより多くの例となる。

ポジションの実質的論拠

WFOT は、作業療法の声明(2010)、日常生活活動の声明書、消費者インターフェースの声明書で述べている通り、能力があり倫理的な作業療法実践を発達させ推進する必要があると明確に主張する。政府組織、非政府組織、より広いコミュニティに対して、作業療法の中核と価値観を推進することは重要である。このポジションをサポートすることによって、会員、会員国、世界中の作業療法士を助けることになる¹。

チャレンジとストラテジー

- この声明書を会員組織に回す。
- 組織の会員に対して声明書を回す代表者を出すよう求める。

<https://www.wfot.org/resources/scope-and-extension-of-practice>

(2019年11月22日 吉川ひろみ・訳)

- 会員国の学会で、この実践の期待をディベートするセッションを設ける。
- 教育課程に対して公式声明を送り、代表者を通して、教育カリキュラムの中でこの声明書を考慮するよう求める。
- 声明書の調査、批判など、各国協会、教育プログラム、その他の重要な人々から意見を求め、考慮する。

結論

この声明書の目的は、専門職が前進するための戦略を策定する際に、会員国組織の基準点を提供することである。教育、実践、役割の出現、研究、プロジェクト、政策における基準点である。この基準点は、作業療法実践の中核を基盤としており、それは人が自らの環境内で優先する作業に参加することができるようになるということである。